

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493200552	事業の開始年月日	令和2年4月1日
		指定年月日	令和2年4月1日
法人名	株式会社アイシマ		
事業所名	グループホームあしたば		
所在地	(241-0823) 横浜市旭区善部町119-13		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	18 ユニット
自己評価作成日	令和4年1月13日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様・ご家族様・職員一人一人の思いを大切にきずなを深め我が家と思える環境を提供致します。ひなたのように暖かくなごめるホームです。グループホームの名称である「あしたば」とはご利用者様が明日に希望を持ち生活して頂きたいという思いから名づけさせて頂きました。

ご利用者様の願いや思いを実現する事により心と体が元気になり意欲ある生活を送って頂けるように支援致します。年間行事は、毎月季節を感じて頂きたくご利用者様と相談しながら企画し食べたい物ややりたい事などを取り入れ行っております。

ご利用者様には希望を聞き1日置きに入浴と足浴を行い清潔を保ち身体状況の把握に努めております。

医療との連携を密にしており心身ともに安心して生活して頂けます

また、ご利用者様と一緒に笑ったり泣いたりしながら寄り添い時にはお互いに助け合いながらご利用者様の大切な時間を共有させて頂き一つの大きな家族になっております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年2月20日	評価機関 評価決定日	令和4年4月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相模鉄道いずみ野線の「南万騎が原」駅より徒歩15分の閑静な住宅地に建つ2階建てのグループホームです。建物は同じ法人が経営する小規模多機能型居宅介護事業所「パレット」に隣接しています。

<優れている点>

コロナ禍の状況で、外出制限や面会の中止が続いていますが、入居者がホーム内で充実した生活が送れるような支援をしています。入居者の要望に合わせて、週に3回の入浴を実施し、足浴も行っています。天気がよい日には、施設周辺の散歩や毎日玄関先で外気浴をしています。事業所内の活動も積極的に行い、職員による習字教室の開催、玉入れや輪投げなどを楽しく行う運動会、ケーキで祝う誕生日会などを実施しています。開所して約2年になりますが、職員の定着率も良く、あしたばの理念にもある入居者とのきずなを深めています。

<工夫点>

食事のメニューや入浴時間、支援方法やその日の行動などは、入居者が主体で決めるようにしています。入居者と職員ともに、自身の思いを言えるような雰囲気づくりを行っています。あしたばの理念が実践できるように、毎朝のレクリエーションで、入居者と職員が理念をいっしょに朗読することで、自然と理念が身につく工夫をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあしたば
ユニット名	なごみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の入職時に管理者がオリエンテーションで理念の説明を行っております。また、毎朝歌のレクリエーション前にご利用者様と一緒に理念を読み、共有及び実践に繋げております。	事業所の理念は、グループホームを開設する際に管理者が作っています。理念を実践に繋げるため、職員は入居者との会話を大切にし、思っていることを把握するように努力しています。法人の理念は「利用者第一主義、地域密着主義、各施設主体主義」です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス流行の為、地域との積極的な交流が難しく、月2回昼・夜に自治会の防犯パトロールに職員が参加しております。またご利用者様と一緒に散歩に出掛けた際はご近所の方と挨拶を交わしております。	緑ヶ丘自治会に加入しています。コロナ禍の現在は活動が制限されていますが、防犯パトロール、防災訓練、フェスティバル、町内の清掃などに参加しています。事業所と地域の人々との交流は、現在できる範囲で実施しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会の防犯パトロールで同行している自治会員の方から事業所の特徴や認知症の方への対応等の質問があり、お話をしご理解して頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	開設当初は事業所で開催をしておりましたが、新型コロナウイルス流行に伴い、書面での開催をしております。書面での開催ですが、自治会員の方や地域包括支援センターの方からご意見を伺っております。	運営推進会議のメンバーは、町内会長、民生委員、旭区高齢障害支援課、南希望が丘地域ケアプラザの職員などです。コロナ禍により事業所内で開催できないため、2ヶ月ごとに報告書を作成しメンバーに発送しています。メンバーからは感想や意見が寄せられています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	旭区・泉区・戸塚区のケースワーカーへ申請書をお届けした際やお電話でご利用者様の状況報告や必要事項を報告しております。	旭区、瀬谷区、泉区、戸塚区、南区の担当者とは入居者の入居後の状況や退所についての相談、入居前の住まいについての相談などを行っています。旭区、泉区、戸塚区のケースワーカーにも、常時利用者の状況を伝えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束等の適正委員会の開催と身体的拘束等の適正化のための指針をフロアごとに設置して職員が一読出来る環境を提供しています。自己点検シートを活用して職員のケアの姿勢を見直ししております。職員が定期的に研修に参加して拘束しないケアの理解・認識を深めております。	身体拘束等の適正委員会のメンバー5人は委員会に出席し、報告書は全職員が閲覧しています。マニュアルは「身体拘束ゼロの手引き」や、身体拘束、虐待防止、権利擁護の各マニュアルを使用しています。自己点検シートの活用や研修への参加で、身体拘束等をしないケアに取り組んでいます。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止について毎年1回の研修に職員が参加し、理解を深めることで虐待を防止するように努めております。	高齢者虐待防止についての研修を、現在はZOOMで実施しています。高齢者虐待の定義、虐待発見チェックリスト、虐待発見後の流れなどが課題となっています。虐待発見時の通報の流れについても整備しています。社内報告を行い、事実確認後に、市町村に通報することにして	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用しているご利用者様がおられる為、その都度必要事項について話し合いを行い対応させて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には総合相談室職員が事業所管理者と一緒に詳細な説明を行い、ご家族様に同意を頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からのご意見やご要望を伺う相談窓口を設置し、必要に応じて相談を頂いております。また重要事項説明書に公的機関の窓口の連絡先を記載しております。	運営に関する家族などの相談窓口を、事業所内では管理者に限定して対応しています。コロナウイルス感染予防の観点から面会を制限しているため、面会再開についての問い合わせが寄せられています。家族の来訪時には、職員が入居者の日頃の状況を報告しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やユニット会議を通じて職員の意見や提案を反映できる機会を設けております。	全体会議とユニット会議を毎月開催し、職員全員が参加しています。会議では法人からの連絡事項を伝え、業務マニュアルの変更や見直し、入居者のケア、事故報告などを議題としています。意見や提案は検討し、改善や見直しも計っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が職員と一緒に働くことにより職員の勤務状況や悩みを把握し職場環境の整備に努めています。時には職員と面談を行い職員の精神面をフォローしております。	職員は近隣の病院で定期的に健康診断を実施し、診断結果は管理者も把握しています。管理者は年に1回、各職員と面談を行っています。職員からの要望は検討の上、法人にも報告して、改善を行っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で行っている職員研修の参加や勉強会に参加をすることにより職員の介護技術や知識向上に努めております。	法人は身体拘束防止、看取り、認知症、薬、介護技術などについての研修を実施し、全職員が参加しています。資格取得を目指す職員に対しては、勤務調整をして、資格取得がしやすい環境を提供しています。無資格の職員を対象とした研修も行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会を通じて他法人の事業所と交流を行っている。法人内では研修や勉強会を通じて他事業所との職員と交流を持ち悩みを相談できる環境を提供しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前は総合相談室職員が利用に際しての不安や要望等を把握し問題解決の支援を行っております。入居後は管理者や職員がご利用者様の不安や悩み等の課題を把握して解決できるよう対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前は総合相談室職員が利用に際しての不安や要望等を把握し問題解決の支援を行っております。入居後は管理者や職員がご利用者様に対する要望等をお聞きして解決できるよう対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時にご利用者様の希望する生活環境をお聞きし、ご家族様と相談しながら支援方法を考えて行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の大先輩であるご利用者様と一緒に笑ったり、時には泣いたりすることでご利用者様と職員が大きな家族としての関係が築けております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々のご様子をご家族様にお伝えし、コロナでの面会制限の中短い時間の面会やお電話などを使用してコミュニケーションを取って頂いております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス流行に伴い、面会や外出制限があり、直接お会いする事は難しい状況ですが、お電話やお手紙でのご連絡にさせて頂いております。	コロナ禍により利用者の馴染みの人との面会や、馴染みの場への外出が困難になっています。友人からの電話連絡の際は、入居者への取り次ぎや、取り次ぎが行えない場合は、職員が近況を伝えています。また、面会制限の解除後の訪問を期待していることも伝えるなど、関係の継続に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	行事やレクリエーションを通じてご利用者様同士で交流を持てるよう支援させて頂いております。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームのサービスが合わず退所されたご利用者様は現在も定期的にお電話やお手紙にて近況報告をされております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様のご要望をお聞きしながら、理念にもある「なごめる我が家」のような環境を提供できるように努めております。	理念の「思いを大切に」を会議を通して話し合いをしています。入居者の食べたい物、自由な食事時間、希望の行事、外出などを聴き取り、一人ひとりの思いや希望を叶えられるように支援しています。利用者からの「1周年のお祝いはやらないの？」の発言にも対応実施しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前の事前面接から生活歴や趣味などをお伺いして入所されてからのサービスに役立てております。また入所後もご利用者様やご家族様から情報収集を行い把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活の中で（言動・行動・バイタルサイン等）変動がないかを確認し状態把握に努めております。ケアカンファレンスを通じてお一人お一人に合った過ごし方を職員で話し合い情報共有に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成者が現場に出ている事によりご本人の意向を把握することができ、ご家族ともお電話やお手紙で細目に連絡することにより意見を反映できております。	ケアカンファレンスで入居者のプランの実施状況を共有し管理者、主任が3ヶ月ごと、若しくは状態変化時に作成しています。家族の要望意見は、面会時や電話で聞き、説明同意も得ています。各自のプランをファイルに入れ毎日見やすい形で支援に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を活用して、日々の生活を記録し、ご利用者様の何気ない変化に気付けるよう職員間で情報共有を行っております。また、職員が介護計画を把握し実践できるよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームでのサービスが合わないご利用者様とはご家族様を交えて相談を行い、ご本人様が望まれている生活ができるように相談支援をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	事業所が開所してから新型コロナウイルス感染のリスクから外出や地域の方との関わりが難しいですが、公園へ散歩に行く時などの挨拶や、職員が町内の安全パトロールへ参加することによりあしたばを知って頂いております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医が2名おりご利用者様の身体にあつた医師に担当して頂いております。医療連携ノートを活用し往診医と情報共有をしております。	入居者全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回入居者の状態に合わせ2名の訪問医の診察を受けています。近くの専門病院に通院する入居者には職員が同行しています。週1回看護師が健康管理し、職員への助言や医師との連携を取り、相互に情報共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の状態の変化等気が付いたことは医療連携ノートを活用し訪問看護師と情報共有をしております。急な体調の変化にはすぐに連絡をして相談し指示を頂き支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し、情報共有しております。入院後は細目に病院と連絡をとり早期に退院できるように支援しております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様とご家族様が分かるように詳しく時間をかけ説明しております。その際医師とも連携をとり医療に関しては詳しい説明をさせて頂いております。	重度化した場合、ターミナルケアや緊急時対応の各マニュアルを整備し、年1回の研修を実施しています。看取りの経験もあります。本人の望む最期の支援に努めています。好きな食べ物の提供や、居室で孤独感がないように、寄り添い支援をしています。職員も終末期ケアの大切さを学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防訓練の際に消防士立ち合いにて心肺蘇生法やAED使用方法の勉強会を定期的に行いたいですが、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを考え現在はマニュアルを見て学習して頂いております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防訓練を行い避難の方法などご利用者様と職員が身に付くように行っております。自治会の防災訓練に参加しグループホームで生活しているご利用者様のADLや人数をお伝えし災害時の対応について話し合っております。	年7回の避難訓練を繰り返すことで入居者が避難経路を理解でき、職員も避難方法を確認できるようにしています。自治会との連携で公園避難・安否確認の事柄を話し合い必要に応じて救助要請の協力体制があります。3日分備蓄し消費期限表を作成しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人お一人に合った声のトーンや言葉かけをケアカンファレンスにて共有して対応しております。	日々のケアの中で、職員は入居者を人生の先輩として接するよう心がけています。敬わない発言や言葉かけについても自己点検シートの項目で見直しています。倫理法令の勉強会に参加し職員の意識向上も目指しています。家族からの電話は居室対応としプライバシーにも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の意向を確認し、希望に添えるように対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時その時のご利用者様の変化に気が付く事ができ今何をしたいのかを都度お伺いしてご自身のペースにて生活をして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身にて選べるご利用者様には洋服を選んで頂き、購入時もお利用者様やご家族様にお好きな色お好きな素材などをお聞きして購入しております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者様の嫌いな物を把握し別メニューで対応しております。簡単な調理や配膳後片付けを職員と話しながら行っております。また、中華レストランと提携をしております配食サービスや外食を利用しております。	週2回食材の調達をしています。入居者のその日の希望に沿った献立を考え、職員の手作りで3食を提供しています。入居者も胡麻擦りや皮むき、米研ぎなどの調理や食器洗いにも参加しています。行事食や月6回の中華食宅配、月2回のパン配達など、食事が楽しめるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	糖尿病のご利用者様へ糖質を抑え満足感ができるように白滝でかさ増しをし提供したり個々に合ったバランスの良いお食事を栄養士の指導のもと提供させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	あさがお歯科と連携をとり指導のもと毎食後口腔ケアを行って頂いております。その際口腔状態の把握に努めご自身で出来ない事はお手伝いしております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご自身では立位できないご利用者様も定期的にトイレ誘導を行いトイレでの排便を促しております。ご利用者様お一人お一人に合った排泄パターンを理解して支援を行っております。	排尿、排便、便の形状、尿の状態、時間、回数、状態の様子などを詳細に記録し、トイレで排便ができるよう声掛け誘導しています。トイレ内に大きな洗面台を完備し、感染症の予防軽減に繋げるため、すぐに手洗いができるよう工夫しています。声掛け誘導により、おむつ使用からトイレ排泄になった改善例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を促し摂取量を増やしています。毎日オリゴ糖や牛乳を提供し、便困時には飲むヨーグルトを提供しております。午前午後と体操を行い便秘予防に努めております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は基本1日おきで行っていますがご利用者様の希望に沿い変更しております。時間帯もご相談し決めております。	週3回入浴・足湯を行っています。入浴を嫌がる人にも無理に誘わず、時間や曜日を変更し対応しています。車いす式入浴装置と入浴用車いすを1階に完備し、安心安全に繋がっています。職員1名が会話しながら見守りと介助を行っています。入浴剤を使用し楽しい入浴となるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動量を増やし外気浴や散歩に行き日光を浴びています。ホーム内では室温や電気など個々に合わせて対応しております。			
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のファイルにお薬説明書を入れ変更時には職員が周知できるように個人ファイルへ記入しております。服薬後の変化など様子は業務日誌やケース記録で細かく記入し申し送りしております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様に合ったお手伝いを無理のないように行って頂き役割を持ち生活して頂いております。毎月の行事はご利用者様も企画から参加され楽しみにされております。			
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在コロナウイルス感染リスクがある為外出は行っていませんが天気の良い日は外気浴や散歩に毎日行かれております。	入居者の希望に添い、人通りが少ない時に施設周辺の散歩を楽しんでいます。天気が良い日は、毎日玄関先のベンチやテラスで外気浴をし、季節感を味わいながら気分転換をしています。コロナ終息後の外出に向け「どんな所に行きたいですか。」と投げかけ希望を聞き計画しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在現金をお持ちのご利用者様はいらっしゃいません。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者様の希望によりお電話やお手紙でコミュニケーションがとれるように支援しております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月壁の飾りを変え季節を感じて頂いております。共有スペースは清潔を保てるように都度掃除して頂いております。室温などご利用者様にお聞きし室温調整を行っております。	入居者が自分の家のように安心して寛いで過ごせるよう配慮しています。フローアは動線を考えて家具や食席の位置にも配慮しています。明るさや清潔感に気を付けています。大きな窓からは庭や森の自然を眺めることができます。季節ごとの花も飾り、四季を感じるができるよう配慮しています。換気に気を付け、検温や配席の変更、アクリル板の設置で感染予防対策をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間ではそれぞれの落ち着く場所にて過ごして頂き食席など希望を聞きながら変更させて頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前の住まいから家具等を持参して頂き我が家に近づけるように対応しております。家具のレイアウトなどもご自身の希望を聞き都度変更させて頂いております。	備品は、エアコン、クローゼット、カーテンがあります。馴染みのテレビ、タンス、テーブル、イス、仏壇などを配置し、テレビや新聞を見て自由に思い思いに過ごせるよに工夫しています。居室担当と話をしたり一緒に衣類整理や季節の模様替えをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自身でできることを無理なく行って頂き出来ない事はお手伝いしながら生活動作の維持に努めております。		

事業所名	グループホームあしたば
ユニット名	ひなた

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の入職時に管理者がオリエンテーションで理念の説明を行っております。また、毎朝歌のレクリエーション前にご利用者と一緒に理念を読み、共有及び実践に繋げております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス流行の為、地域との積極的な交流が難しく、月2回昼・夜に自治会の防犯パトロールに職員が参加しております。またご利用者と一緒に散歩に出掛けた際はご近所の方と挨拶を交わしております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会の防犯パトロールで同行している自治会員の方から事業所の特徴や認知症の方への対応等の質問があり、お話をしご理解して頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	開設当初は事業所で開催をしていましたが、新型コロナウイルス流行に伴い、書面での開催をしております。書面での開催ですが、自治会員の方や地域包括支援センターの方からご意見を伺っております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	旭区・泉区・戸塚区のケースワーカーへ申請書をお届けした際やお電話でご利用者の状況報告や必要事項を報告しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束等の適正委員会の開催と身体的拘束等の適正化のための指針をフロアごとに設置して職員が一読出来る環境を提供しています。自己点検シートを活用して職員のケアの姿勢を見直ししております。職員が定期的に研修に参加をして拘束しないケアの理解・認識を深めております。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止について毎年1回の研修に職員が参加し、理解を深めることで虐待を防止するように努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用しているご利用者様がおられる為、その都度必要事項について話し合いを行い対応させて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には総合相談室職員が事業所管理者と一緒に詳細な説明を行い、ご家族様に同意を頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からのご意見やご要望を伺う相談窓口を設置し、必要に応じて相談を頂いております。また重要事項説明書に公的機関の窓口の連絡先を記載しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やユニット会議を通じて職員の意見や提案を反映できる機会を設けております。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が職員と一緒に働くことにより職員の勤務状況や悩みを把握し職場環境の整備に努めています。時には職員と面談を行い職員の精神面をフォローしております。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で行っている職員研修の参加や勉強会に参加をすることにより職員の介護技術や知識向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会を通じて他法人の事業所と交流を行っている。法人内では研修や勉強会を通じて他事業所との職員と交流を持ち悩みを相談できる環境を提供しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前は総合相談室職員が利用に際しての不安や要望等を把握し問題解決の支援を行っております。入居後は管理者や職員がご利用者様の不安や悩み等の課題を把握して解決できるよう対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前は総合相談室職員が利用に際しての不安や要望等を把握し問題解決の支援を行っております。入居後は管理者や職員がご利用者様に対する要望等をお聞きして解決できるよう対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時にご利用者様の希望する生活環境をお聞きし、ご家族様と相談しながら支援方法を考えて行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の大先輩であるご利用者様と一緒に笑ったり、時には泣いたりすることでご利用者様と職員が大きな家族としての関係が築けております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々のご様子をご家族様にお伝えし、コロナでの面会制限の中短い時間の面会やお電話などを使用してコミュニケーションを取って頂いております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス流行に伴い、面会や外出制限があり、直接お会いする事は難しい状況ですが、お電話やお手紙でのご連絡にさせて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	行事やレクリエーションを通じてご利用者様同士で交流を持てるよう支援させて頂いております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームのサービスが合わず退所されたご利用者様は現在も定期的にお電話やお手紙にて近況報告をさせて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様のご要望をお聞きしながら、理念にもある「なごめる我が家」のような環境を提供できるように努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前の事前面接から生活歴や趣味などをお伺いして入所されてからのサービスに役立てております。また入所後もご利用者様やご家族様から情報収集を行い把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活の中で（言動・行動・バイタルサイン等）変動がないかを確認し状態把握に努めております。ケアカンファレンスを通じてお一人お一人に合った過ごし方を職員で話し合い情報共有に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成者が現場に出ている事によりご本人の意向を把握することができ、ご家族ともお電話やお手紙で細目に連絡することにより意見を反映できております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を活用して、日々の生活を記録し、ご利用者様の何気ない変化に気付くよう職員間で情報共有を行っております。また、職員が介護計画を把握し実践できるよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームでのサービスが合わないご利用者様とはご家族様を交えて相談を行い、ご本人様が望まれている生活ができるように相談支援をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	事業所が開所してから新型コロナウイルス感染のリスクから外出や地域の方との関わりが難しいですが、公園へ散歩に行く時などの挨拶や、職員が町内の安全パトロールへ参加することによりあしたばを知って頂いております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医が2名おりご利用者様の身体にあった医師に担当して頂いております。医療連携ノートを活用し往診医と情報共有をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の状態の変化等気が付いたことは医療連携ノートを活用し訪問看護師と情報共有をしております。急な体調の変化にはすぐに連絡をして相談し指示を頂き支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し、情報共有しております。入院後は細目に病院と連絡をとり早期に退院できるように支援しております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様とご家族様が分かるように詳しく時間をかけ説明しております。その際医師とも連携をとり医療に関しては詳しい説明をさせて頂いております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防訓練の際に消防士立ち合いにて心肺蘇生法やAED使用方法の勉強会を定期的に行いたいですが、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを考え現在はマニュアルを見て学習して頂いております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防訓練を行い避難の方法などご利用者様と職員が身に付くように行っております。自治会の防災訓練に参加しグループホームで生活しているご利用者様のADLや人数をお伝えし災害時の対応について話し合っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人お一人に合った声のトーンや言葉かけをケアカンファレンスにて共有して対応しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の意向を確認し、希望に添えるように対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時その時のご利用者様の変化に気が付く事ができ今何をしたいのかを都度お伺いしてご自身のペースにて生活をして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身にて選べるご利用者様には洋服を選んで頂き、購入時もお利用者様やご家族様にお好きな色お好きな素材などをお聞きして購入しております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者様の嫌いな物を把握し別メニューで対応しております。簡単な調理や配膳後片付けを職員と話しながらい行っております。また、中華レストランと提携をしており配食サービスや外食を利用しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	糖尿病のご利用者様へ糖質を抑え満足感ができるように白滝でかさ増しをし提供したり個々に合ったバランスの良いお食事を栄養士の指導のもと提供させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	あさがお歯科と連携をとり指導のもと毎食後口腔ケアを行って頂いております。その際口腔状態の把握に努めご自身で出来ない事はお手伝いしております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご自身では立位できないご利用者様も定期的にトイレ誘導を行いトイレでの排便を促しております。ご利用者様お一人お一人に合った排泄パターンを理解して支援を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を促し摂取量を増やしています。毎日オリゴ糖や牛乳を提供し、便秘時には飲むヨーグルトを提供しております。午前午後と体操を行い便秘予防に努めております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は基本1日おきで行っていますがご利用者様の希望に沿い変更しております。時間帯もご相談し決めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動量を増やし外気浴や散歩に行き日光を浴びています。ホーム内では室温や電気など個々に合わせて対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のファイルにお薬説明書を入れ変更時には職員が周知できるように個人ファイルへ記入しております。服薬後の変化などご様子は業務日誌やケース記録で細かく記入し申し送りしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様に合ったお手伝いを無理のないように行って頂き役割を持ち生活して頂いております。毎月の行事はご利用者様も企画から参加され楽しみにされております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在コロナウイルス感染リスクがある為外出は行っていませんが天気の良い日は外気浴や散歩に毎日行かれております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在現金をお持ちのご利用者様はいらっしゃいません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者様の希望によりお電話やお手紙でコミュニケーションがとれるように支援しております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月壁の飾りを変え季節を感じて頂いております。共有スペースは清潔を保てるように都度掃除して頂いております。室温などはご利用者様にお聞きし室温調整を行っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間ではそれぞれの落ち着く場所にて過ごして頂き食席など希望を聞きながら変更させて頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前の住まいから家具等を持参して頂き我が家に近づけるように対応しております。家具のレイアウトなどもご自身の希望を聞き都度変更させて頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自身でできることを無理なく行って頂き出来ない事はお手伝いしながら生活動作の維持に努めております。		

2021年度

事業所名 グループホームあしたば
 作成日： R4 年 5月 2日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	コロナ禍で外出支援が出来ない。	外出の機会を増やす。	外気浴や散歩だけでは無く感染予防に努めドライブや人混みを避けた外出を行う。	12ヶ月
2		ご家族様のアンケートでの指摘事項があり、管理者と一般職員との情報共有ができていない。	全職員へ情報が共有出来るようにする。	管理者は連絡帳に記入し、見落としが無いように口頭でも送り合う。 一階・二階職員全てが把握出来るようにする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月